

グローバル通信

長崎県立口加高等学校GLコース 令和元年11月9日

第8回島原半島ユネスコ世界ジオパーク高校生研究発表大会

11月9日(土)、「がまだすドーム(雲仙岳災害記念館)」セミナー室において【第8回島原半島ユネスコ世界ジオパーク高校生研究発表大会】が開催されました。本校グローバルコース1・2年から植物班と看板班が参加しました。

植物班は、『固定種まもり隊～私たちを支える固定種の多様性～』、看板班は、『看板を考える、看板で考える』というテーマで発表しました。

結果、植物班「優秀賞」、看板班「審査員特別賞」をそれぞれ受賞しました。発表内容の要旨は、下記をご覧ください。

植物班

第8回島原半島ユネスコ世界ジオパーク
高校生研究発表大会
(第1回ジオ空教室)

固定種まもり隊

～私たちを支える固定種の多様性～

優秀賞

看板班

高校生研究発表大会
(第3回ジオ空教室)

一般人とジオ関係者での見方の違い
～看板を考える、看板で考える～

長崎県立口加高等学校 グローバルコース 看板班
大平 彩佳 竹市 海菜

審査員特別賞



発表の様子



表彰の様子



研究テーマ

『固定種まもり隊～私たちを支える固定種の多様性～』

植物班

【発表の要旨】

島原半島は、雲仙普賢岳がつくる火山灰を含んだ肥沃な土壌に恵まれています。そのため、この地域では昔から農業が盛んに行われてきました。長い間、半島内で育てられてきた野菜たちは、その土地に馴染み、生命をつなぐために大切に守られてきました。さらに、それらは【種】を始まりとし、種取農家によって受け継がれてきました。しかし今、農業の効率化、生産性を重視するあまり、受け継がれてきた種は知らないうちに大変な危険にさらされています。私たちはこの種の問題に注目して研究に取り組んでいます。種には、固定種とF1種があります。固定種は代々受け継がれてきた種で、多様性と適応力に優れています。F1種は一代限りの雑種で大量生産に好都合です。今は農業市場の9割以上をF1種が占めています。これでは、地元で昔から守られてきた野菜が多様性を失い、絶滅する恐れもあります。私たちはこの事実を多くの人に伝え、自ら固定種の野菜を育てることで、種の問題を身近な目線で捉え、解決するために日々研究を行っています。今回は、ここまでの研究結果と、そこから考えた仮説について発表しました。

メンバー

G L 2年小玉亜澄・照平麗月 G L 1年白石栞太・綾部浩哉・田口陽良理・濱田美里



看板班

研究テーマ

『看板を考える、看板で考える』

【発表の要旨】

南島原市みずなし本陣ふかえ内にある、土石流被災家屋公園において、看板がどのように観光客に認知されているかを調査し、より多くの人に、求められている情報を伝えることができる看板の開発について、研究しました。全体の印象や、文字数や文字の大きさなどをアンケートやモニタリングで調査し、そのデータを基に看板の改良を重ねました。また、一般の旅行客とジオパーク関係者に、同様のアンケート調査を行いました。看板を作成するジオパーク関係者の方が看板に求める部分と、一般の方が看板に求める意識の違いを研究しましたので、そこから見えてきた内容を発表しました。

メンバー

G L 1年大平彩佳 竹市琳菜

